

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	平成20年 12月 10日
調査実施の時間	開始 9時 40分 ~ 終了 14時 35分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム パッション (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名	新納 祐子
	氏名	竹下 公子
事業所側対応者	職名	管理者
	氏名	中野 美子
		ヒヤリングを行った職員

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670104076号		
法人名	有限会社 パッション		
事業所名	グループホーム パッション		
所在地	〒891-0143 鹿児島市和田1丁目16番1号 (電話) 099-269-1171		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価確定日	平成21年1月4日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 4 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 8人, 非常勤 9人, 常勤換算	14.7人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費12000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要 ( 11月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.4 歳	最低 78 歳	最高 97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新田ニコニコクリニック・ひらせ歯科クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺の地域に住んでいる職員が多く、町内会に加入し、地域との夏祭り・文化祭・廃品回収等の行事に参加し、地域との交流を積極的に行っているホームである。利用者は食事の準備や後片付け等、役割を持ち、外出・買い物等、楽しみながらそれぞれのペースでゆったりと生活している。管理者と職員のチームワークで、入居者の出来る力を大切に生かし、本人のペースを守りながら、楽しく過ごせるように支援をしている。利用者や家族の意向や思いを反映して、日々のケアやサービスの質の向上への取り組みがなされている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「馴染みながらのサービスの利用」については徐々に馴染めるように家族と相談しながら取り組みがされ、災害時の備蓄に関しても改善されている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行い、ユニット毎に管理者がまとめ、話し合いを行なった。外部評価の意義を理解し、改善点に対しては見直しを行い取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、民生委員や家族の代表・、町内会長等に参加してもらい、ホームの状況や報告を行うなど、有意義に開催している。行事についての話なども行い、意見なども聞きながらサービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年二回家族会を行なっている。面会時には声かけも行っている。意見箱の横に家族会の会長の連絡先やアドレスを記載している。運営推進会議にも参加してもらい、家族の意見や話を聞きながら運営にも反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、夏祭り・文化祭・廃品回収等の行事に参加して、地域との交流を積極的に行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、地域との交流を目標に取り入れながら、地域密着型サービスとしての独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も理念を共有し、内部研修等でも理念をテーマに話をしている。常に理念をもとに日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭り・運動会・文化祭・廃品回収等の地域行に参加して地域との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、ユニット毎に管理者がまとめ、話し合いを行なった。外部評価の意義を理解し、改善点に対しては見直しを行い取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や家族の代表・町内会長等に参加してもらい、ホームの状況や報告を行うなど、有意義に開催している。行事についての話なども行い、意見を聞きながらサービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課に相談したり、地域包括支援センターとも連携を図り情報交換を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、新聞や行事予定表を発行し、個々の生活の様子等を報告している。金銭出納帳は面会時にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回家族会を行い家族の意見を聞くようにしたり、面会時には声かけなども行っている。意見箱の横に家族会会長の連絡先やアドレスを記載し連絡を取りやすくしている。運営推進会議に家族に参加してもらい意見や話を聞きながら運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員がケアにあたっている。職員の異動は極力ないようにしているが、代わる場合は通信で家族にお知らせしている。新しい職員が入る場合は利用者で紹介し、馴染みの関係が出来るまでベテランの職員と一緒にケアを行なっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に順番に参加している。また、ホームでの勉強会等も定期的に行っている。職員の資格取得の支援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームの勉強会に毎月参加している。職員のホームの相互訪問等も行っている。お互いの情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅等へ訪問したり、体験入居を行い環境変化に慣れるまで家族にホームに来てもらったり、寝るまでそばについてもらうなど、職員や他の利用者に馴染めるよう、家族と相談しながら取り組みを行なっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯物のたたみ方・畑の耕作等を教わりながら、人生の先輩であるという考えを職員が共有し、お互いに支えあう関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声かけや見守りをしながら、意見や希望の把握に努めている。また、日々の行動や様子で思いを汲み取り本人本位に支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に本人や家族等に思いや意見・要望を聞いたり、主治医の意見を伝えたりしながら、個人の希望に沿った介護計画の作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、モニタリングを行っている。状態の変化が生じた場合や必要時には職員間で話し合いを行い、見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や自宅訪問・買い物など、利用者・家族の要望や状況に応じて柔軟な支援を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に通院している。家族とも連絡を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・家族・ホームの意向を統一するための協議を行っている。最終的にターミナルケアを本人・家族と相談して方向性を出し、それを支援するという方針で職員全員が共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや入浴等、利用者の誇りやプライバシーに配慮しながら声かけを行なっている。面会簿も個別に設置し、記録や個人情報についての取り扱いにも十分な配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間やテレビの時間・入浴・外出等、個々のペースや好みを大切にしながら、利用者の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事の準備をし、同じテーブルで楽しく話をしながら食卓についている。また、片付けも一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて入浴を行なっている。また希望に応じて、いつでも入浴できるように対応している。入浴がおっくうな人には清拭したり、入浴が楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ペットの世話・外食・ドライブ・買い物等、利用者一人ひとりの役割や楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リハビリの帰りに買い物・ドライブ・外食・散歩等、利用者の希望にそって、日常的に外出の支援を行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることへの弊害を理解しており、日中は鍵をかけずに職員が目配り、気配りを行ないながら、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、近隣の医療機関の協力をもらいながら利用者と共に消防訓練を行なっている。地域内に住んでいる職員が多く地域との協力体制もできている。米や水等の備蓄もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行なっている。水分量が少ない時は声かけをしながら補充している。栄養バランスに配慮した献立となっている。居室にお茶やお湯を準備しいつでも飲めるようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいきりびんぐで、利用者はゆったりと過ごしている。玄関・フロアには季節の花を飾ったり、季節を感じる飾り付けがされていて、環境作りに配慮がなされている。利用者が居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみや家族の写真・表彰状・机・椅子・仏壇・ペット等、本人の大切なものや思い出の品などを身近に置き、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。